

8月7日、主権者教育推進の一環として市議会議場で「令和6年度高校生議会」を開催しました。市内4つの高等学校から3人ずつ、計12人が参加。市政に対しさまざまな質問を投げかけ、市長、副市長、教育長が答弁しました。高校生議員の皆さんの質問と、答弁の概要を紹介します。

令和
6年度

高校生議会

問 教育総務課 ☎内線3331

市民交流活動の活性化への関りについて



かんべ のりあき
神戸 紀昭さん

(つくば開成高2年)

地域の人の繋がりは重要なことと考えます。市民活動団体や市民ボランティアによる地域活動の具体的内容について教えてください。また、市がどのようにこれらの活動に関与し、支援しているのかについてお聞かせください。

答弁 市には多くの市民活動団体があり、地域活動は多種多様です。例えばひとり暮らし高齢者の見守り、公園の草刈り、自然保護、防犯パトロール、学校等での本の読み聞かせや、外国人向けの日本語教室。他にも「かっぱ祭り」をはじめ大小様々なイベントも、ボランティアを中心とした活動団体によって開催されています。市の支援等については、補助金の交付、行事運営や書類作成等の支援があります。加えて、地域活動中の事故に備えて「市民活動災害補償制度」に加入し、安心して活動できる環境を整えております。

グローバル人材の育成



まつしか こはる
松鹿 心悠さん

(東洋大牛久高3年)

グローバル化が進む中、世界で活躍する人材育成のために、子どもたちにどういった環境を用意していきますか。また、親の所得が十分でなかったり、日本語が喋れない外国人の子どもたちに対してどういった教育支援を行うかについてお聞かせください。

答弁 異文化理解とコミュニケーション能力育成の観点から、市内では総合的な学習の時間等で世界の国々とZoom等で繋ぎ、文化交流を行っている学校があります。また「牛久市外国語教育小中連携協議会」を設け、小中学校間における外国語教育の相互連携を図ったり、幼児教育施設へもALTを派遣するなど英語教育に注力しています。その他、外国人の子どもたちへの教育支援も重視し、「通訳サポーター」や「訪問型家庭教育支援」という事業を実施することで、日本語がしゃべれない子どもたちの学習や生活の支援を行っています。

「知の循環型社会」の形成について



さるた あおの
猿田 蒼乃さん

(牛久高2年)

牛久市第3次総合計画に市民同士の学び合い等の記載がありました。牛久市では児童・生徒に対してどのような学び合いや交流の場があり、成果として挙げられているのか、また、総合計画にある「知の循環型社会」をどのように展開していくのか教えてください。

答弁 小学生を対象とした土曜カップ塾において、多様な特技や知識を持った地域の方々が指導者となり、市民と児童との交流が行われています。令和5年度では、市内の小学校全児童数4,260人のうち、延べ3,655人が参加しました。将来的には高校生や大学生も講師となり、学びの循環が深まることと考えています。今後も「知の循環型社会」を目指し、学校・家庭・地域住民等の更なる連携の重視や、地域人材の育成、人生100年時代を豊かに生きるための学びの支援などを推進してまいります。

近年の国際化に伴う牛久市の政策について



やまと たくみ
山戸 匠さん

(牛久高2年)

国際化が進む中、外国人との文化や慣習の違いによる問題が増えています。市として、外国人との理解を深めるための取り組みについてお聞かせください。また、提案として市の催しで交流の場を設けて頂けないでしょうか。

答弁 外国人と日本人の相互理解促進を目指し、様々な支援等を行っています。具体的には、牛久市国際交流協会による日本語教室や世界家庭料理の会、国際理解教育講座、ワークショップの定期開催をしております。さらに、カナダ・ホワイトホース市やオーストラリア・オレンジ市との姉妹都市交流では、若い世代同士での国際交流の場を設けています。また、かっぱ祭りの踊りパレードに外国人の方が牛久市国際交流協会として参加しています。参加者同士で会話する姿も見られ、交流が深まる機会になると考えています。

牛久市の環境問題解決に向けての取り組みについて



のぞら かいしん
野寺 海心さん

(つくば開成高1年)

市の温室効果ガス対策やエネルギーの地産地消など、環境問題やエネルギー問題に対する取り組みについて、具体的な政策やその効果を教えてください。

答弁 市では環境問題に対応するため、水質汚濁や大気汚染の防止に向け定期的な測定を実施しています。廃棄物については、家庭から出るごみのさらなる削減を目指し啓発活動を実施しています。地球温暖化に関しては、エネルギー使用量削減と再生可能エネルギーの利用推進が重要と考え、公共施設への太陽光発電設備の設置をはじめとして、使用済の食用油からバイオディーゼル燃料を製造したり、住宅用建築端材から木質ペレットを製造してそれぞれ燃料として活用し、「ゼロカーボンシティ」の実現を目指しています。

子どもの活字離れへの取り組みについて



ふち めい
淵 萌愛さん

(牛久栄進高2年)

スマートフォンやタブレットの普及により子どもたちの活字離れが進行している問題について、牛久市の対応をお聞かせください。また、市民の読書習慣を育てるための市立図書館の位置づけや利便性向上への取り組みについても教えてください。

答弁 活字離れ防止の取り組みとして、中学校ではビブリオバトルや生徒選書会、司書による推薦図書コーナー設置等の取り組みを行っています。また、「頼りになる図書館」を目指し市立図書館では、依頼のあった資料や情報を探すレファレンスサービス事業に力を入れています。他にも幼少期から継続的に本へ触れる様々な機会を提供する取り組みを実施しています。また、利便性を高める取り組みとしてはウェブでの資料検索・予約サービスがあり、ひたち野リフレ窓口等でも予約図書を受け取ることができます。

今後の部活動について



なかむら よしのぶ
中村 圭伸さん (牛久高2年)

学校の働き方改革や部員不足の問題から、学校部活動の在り方が変化しています。これに対し、市が部活動に対してどのような政策を行っているのか、また今後の政策は何か教えてください。

答弁 牛久市は「地域運動部活動推進事業」を実施。市内中学校部活動の休日活動を顧問教員ではなく、外部委託の指導者が行うことで、地域スポーツ活動モデルの実証研究を進めています。4つの種目を地域クラブ活動として実施。参加者、保護者等や指導者からの意見等から、問題点の洗い出しとその解決策を検討しています。また、地域クラブ活動のガイドラインを急ピッチで策定中で、今後の指針となるものを整備。生徒の望ましい成長のため、学校・地域とでお互いがwin-winの関係となるよう取り組んでまいります。

少子高齢化対策について



すずき しゅうた
鈴木 朱太さん (牛久栄進高2年)

人口減少は労働力や家族のあり方等に影響を及ぼします。市の「少子高齢化対策」について、合計特殊出生率の低下への対策とその結果を教えてください。また、高齢者が安心して暮らせる街づくりに向けた、市の取り組みと成果についてお聞かせください。

答弁 本市では子育て世帯の転入増を促すための施策として、民間保育施設誘致や児童クラブの整備、予防接種充実等の施策を実施しました。本市の人口減少率は緩やかなことから一定の成果が出ていると考えています。高齢者が安心して暮らせるまちづくりとしては、見守り活動や体操教室、予防接種助成、配食サービス、緊急通報装置の貸与や外出支援用具の購入助成、訪問理美容サービス等の支援を行っています。これらの結果、要介護認定率が全県中7番目に低い14.3%となり、一定の成果が得られていると考えています。

観光産業の展開について



はない ひつき
花井 陽月さん (牛久栄進高2年)

牛久駅周辺は閑散しており、市が活気を取り戻すには観光客向けの施設展開等が必要と考えます。牛久市の特徴や強み、駅周辺の観光産業活性化について。また、複数の観光地を巡れることは有効だと考え、近隣自治体との連携状況等を聞かせてください。

答弁 エスカード牛久ビルはテナント誘致が進み、徐々に賑わいが回復しつつあります。牛久駅周辺のイベントは市内に住む方々や、事業者の皆様が中心となり開催され、今後も必要な支援を継続してまいります。観光産業では、各観光施設の連携に加え、「ピザフェスタ」のようなイベントコラボ等も効果があると考えております。近隣自治体との連携については、牛久沼活用推進協議会を設立し牛久沼周辺地域の活性化に取り組むため検討を進めています。また、大洗町と連携しツアーの一部に牛久市を含める協議を進めています。

ICT教育の普及による教師の必要性



おかざわ かほ
岡澤 果歩さん (東洋大牛久高3年)

先進的なICT教育環境を整備している中で、教師の必要性について考えました。ICT教育の普及に伴い、市がどのように学習に組み込む方針なのか。また、教育テクノロジーは教師の役割を補助するのか、それとも替わるのかを教えてください。

答弁 牛久市では、今年度より市内全小学校に情報教育指導員を配置し、発達段階に応じた情報活用能力目標を策定してICT教育を強化。今後は、ICT環境を最大限活用し、校外での学習や他地域・海外交流等を通じて児童生徒の能力育成を図っていきます。また、教育テクノロジーの発展に伴い、教師は子どもの主体的な学びの伴走者としての役割を担っています。個々の児童生徒の実態を把握し、一人ひとりに寄り添った支援は人間である教師ならではのことで、市としては、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進していきます。

市民交流における都市部との差異



うえだ あおいのすけ
植田 碧之介さん (東洋大牛久高3年)

東京一極集中が進む中、活気ある街づくりを進めてほしい。市内コミュニティ活性化についての取り組みや牛久市がモデルにしている都市部の自治体について。また、高校生と市民が交流し、市を活気づけるアイデアを生み出す機会がありましたら教えてください。

答弁 牛久市では、春夏秋冬毎に祭り等イベントの開催。また、プロスポーツチームと協定を結び、各地でPR活動の実施や、都内銀座の「イバラキセンス」で名産品をPR。加えて、今年は「うしく最強グルメ決定戦」も開催しました。こうした活動を通じ、コミュニティの活性化を図っています。モデルとする都市部の自治体はないが、他自治体の先進的な事例に関する情報収集を行い、各種施策を展開しています。高校生と市民との交流につきましては、各校の様々な部活動等と多くの連携、交流を行っています。

「かっぱ号」をはじめとする公共交通の提供について



よしだ はると
吉田 悠人さん (つくば開成高1年)

「かっぱ号」のような公共交通は移動手段の充実に繋がり、市の魅力を高める重要な社会基盤だと感じている。市がどのような公共交通サービスを実施し、どのような課題があるのか教えてください。

答弁 牛久市は、コミュニティバス、デマンド型タクシーを運行。また、3つの学区では地元住民が運転するボランティア移送サービスが運行されており、市が運行費を支援。加えて、民間の路線バス、タクシー、スクールバス等の各種交通手段により、市の公共交通が形成されています。課題として、運転手不足による公共交通の運行便数減少があります。そこで、運転手の確保に繋がる「ドライバーバンク」を実証実験として実施。また、交通が不便な地域を対象に、新たな交通手段として自家用車で運行する事業を行います。